

「楽しみは毎年広がっています」
最上段のロケーションも魅力



四賀ガルテナーの楽しみ

ガルテンで何してん!?

山椒の実・竹の皮・山胡桃…
虚空蔵山の恵みに感謝!

緑ヶ丘クラインガルテン 360号

入江 勝利さん・克子さん夫妻

緑ヶ丘クラインガルテンの最上段。クラブハウスのさらに奥にも、1棟だけラウベがあるのをご存じですか? 東京から通って7年目になる入江勝利さん

(67)、克子さん夫妻のラウベです。

「私たちの区画は、玄関側に虚空蔵山を背負っていて西側が林のために、日当たりは午前中だけ。でも作

物は育ちますし、何と言ってもこのロケーションが魅力ですね」。入江夫妻のラウベを一步出たところからは、虚空蔵山山頂への山道が上っています。実は入江夫妻は、この山のさまざまなお恵に、すっかり魅了されているのです。

「春はフキノトウから始まって、タラノ芽、ワラビなど香り豊かな山菜が採れます。そして秋になれば山栗や山胡桃、キノコもガルテンの管理人さんから教えてもらって…。いま8月はちょうど竹の皮が剥がれ落ちる季節。おにぎりや中華ち

まきを包むのにいいし、東京の友達にも贈って喜ばれているんですよ」と嬉しそうな克子さん。

包み物に使います。「堅くて割るのが大変」(勝利さん)という山胡桃も、和え物にして楽しみ、山椒の実も、佃煮にして一年間味わいます。「私たち、ガルテンでは、半分が虚空蔵山と一緒に暮らしているように、せつかくの恵みやから、ありがたく楽しんでいます」。

克子さんは大坂、堺市の生まれ。「アパートまで歩いて10分という都会で育ち、主人と娘たちと東京で30年ほど住みました。田舎暮らしに憧れ続けて、十数年前から古民家を探していたんです」と話すほど土のある生活に思い入れも深い様子。勝利さんは畑に飛んで来る蝶を採取して標本を楽しみ、最近では溪流でのニジマス釣りで「平均10匹ほど捕ることが出来ます。自給自足の生活に近づいている」と夫婦で笑顔を交わします。

畑では「ゴボウやサトイモから、信州の伝統野菜・ボタゴシヨウなども育てています。春耕の季節から10月ごろまではひと月の半分から3分の2ほど滞在し、冬はスリランカやインドなどに2人で旅行する生活。「ここ信州での楽しみも毎年広がっています」と定年後の夫婦の生活を存分に楽しんでいます。